



**2013年 3月期
第2四半期 (4-9月)
決算説明会**

2012年11月2日

石油資源開発株式会社

注意事項

本資料に掲載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、その他歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しを示したものです。実際の業績は、さまざまな要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。

Copyright: 本資料に含まれるすべての内容に関する著作権は、当社が有しています。
事前の承諾なく、これらの内容を複製もしくは転載することはお控えください。

注: 本資料において 1H,2H はそれぞれ上期、下期を、
(a) は実績数値を、(e) は予想数値を示しています。

本資料に関するお問い合わせ、その他IRに関するご質問は、以下にお願いいたします。

石油資源開発株式会社 広報IR部 IRグループ 電話 03-6268-7111

説明会の内容

I. 事業の概況

代表取締役社長 渡辺 修

II. 2013年3月期 第2四半期 決算の概要

代表取締役副社長 佐藤 弘

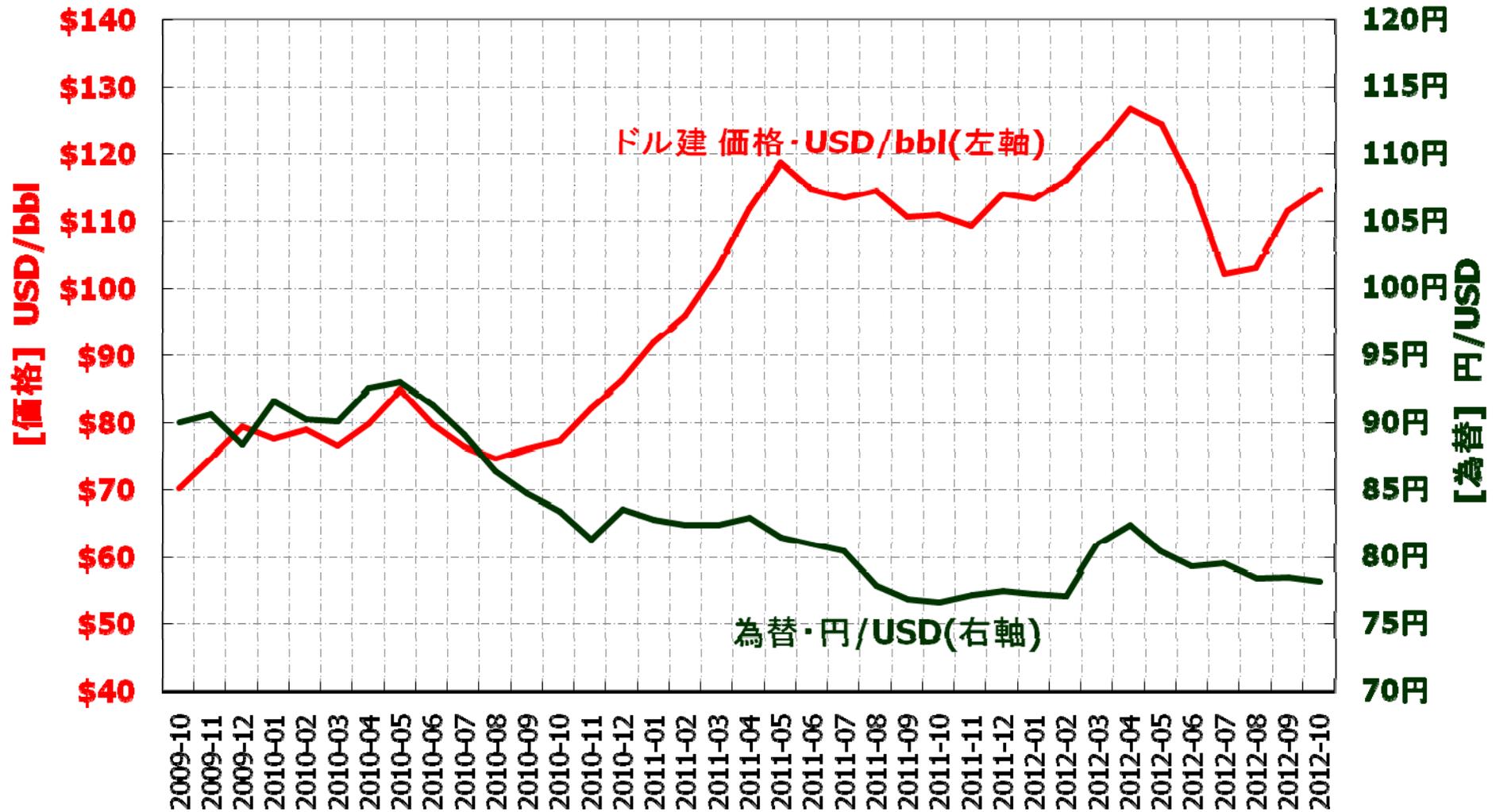
III. 2013年3月期 通期業績予想修正の概要

代表取締役副社長 佐藤 弘

事業概況

代表取締役社長 渡辺 修

原油価格と為替の動き



2012年10月上旬(10/1-10/10)分のCIF価格(速報)

USD 114.74/bbl 78.24円/USD

2013年3月期 通期業績予想修正(ハイライト)

単位: 億円	12/3月期 実績 (a)	13/3月期 当初予想 (e) 5.11公表	13/3月期 今回予想 (e) 10.26公表	比較増減
売上高	2,306	2,147	2,222	+76
営業利益	150	100	103	+3
経常利益	221	168	189	+20
当期純利益	170	165	▲116	▲282

原油CIF価格と為替 (原油CIF: USD/bbl 為替: 円/USD)

原油CIF	112.43	100.00	112.08	+12.08
為替/USD	78.93	80.00	80.19	+0.19

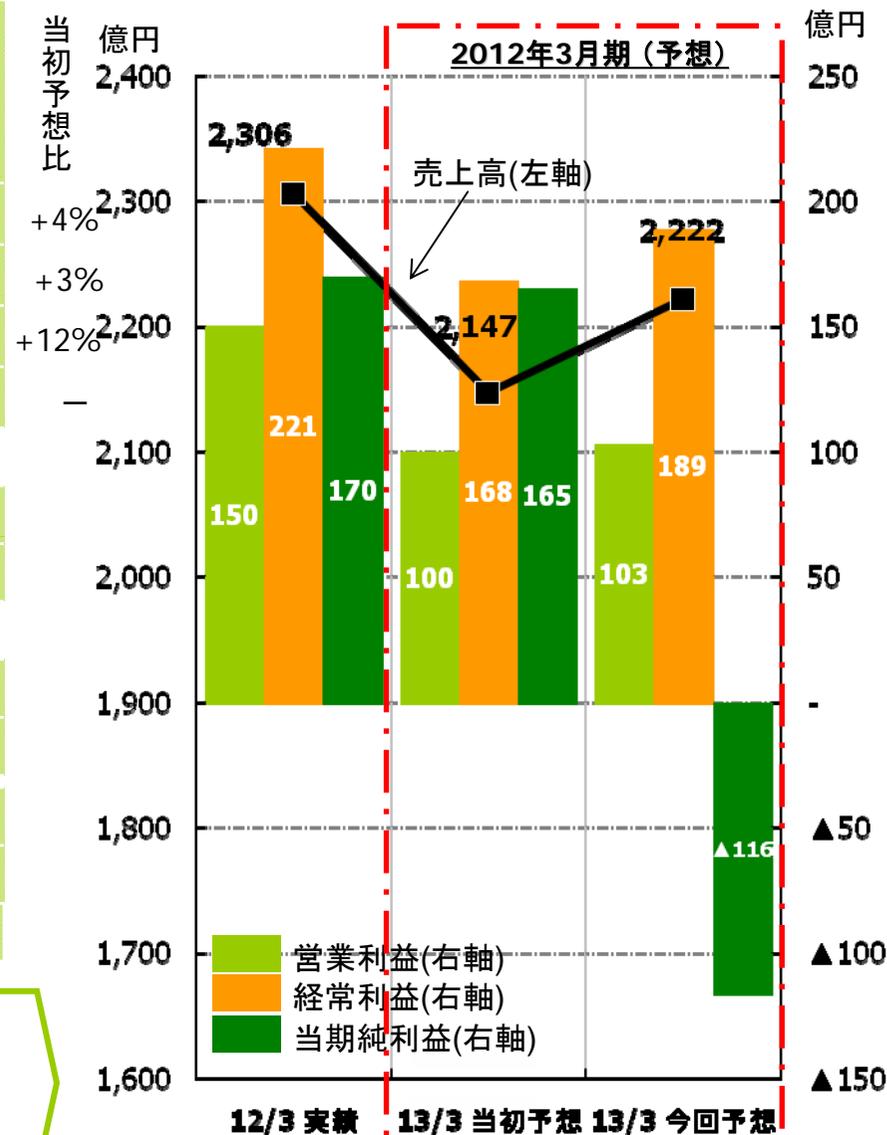
ビチューメン価格と為替 (ビチューメン: CAD/bbl 為替: 円/CAD)

ビチューメン	49.81	52.91	48.76	▲4.15
為替/CAD	76.22	80.00	80.00	-

今回予想	1Q 実績	2Q 実績	3Q 予想	4Q 予想
原油CIF	124.11	106.79	115.00	100.00
ビチューメン	54.22	49.57	45.29	

【業績予想修正のポイント】

- 増益要因 販売価格上昇 受取配当金の増加
- 減益要因 生産販売計画の見直し
勇払油ガス田に係る事業用資産の減損



勇払油ガス田の概要と減損損失計上

【勇払油ガス田の概要と減損の経緯】

- 1996年2月より生産を開始し、これまでの累計生産量は原油278.8万kl、天然ガス48.7億m³となりました。
- 当社は油ガス田の生産能力を注意深く把握することに努めてまいりましたが、2011年度冬期に想定を上回る水の産出を見たことから、2012年6月の坑底圧測定結果も踏まえ再評価を行い、生産能力の急激な減少を確認いたしました。
- 結果、2013年3月期第2四半期決算において、当社は勇払油ガス田に係る減損損失として、370億円の特別損失を計上いたしました。

【勇払油ガス田の今後と北海道内の天然ガス供給について】

- 本油ガス田は引き続き当社の主要油ガス田であり、周辺ポテンシャルの探鉱・開発を含めて長期の生産操業を図る所存です。
- なお、当社は、本油ガス田からの生産に加えて、勇払LNG受入基地と自社内航船を利用した供給体制を既に整えており、また、北海道ガス株式会社殿の石狩LNG基地の運用が本年12月より開始される予定であることから、今回の生産量見通しの下方修正により、今後の北海道における天然ガスの安定供給が損なわれる心配はございません。

勇払油ガス田の減退を受けて…国内事業の再強化

勇払油ガス田の減退、これに伴う収益減への対策として、当社は特に以下の取組みを推進し、国内事業の再強化・価値向上を図ります。

1. 操業コストの削減

生産量の減少に対応した操業体制の最適化 → 操業コスト削減

- 2013年度より、現在のガス処理系列5トレイン体制から3トレイン体制への移行を予定
- その後も更なる最適化を追求

2. 北海道内での探鉱・開発ポテンシャル追求

勇払油ガス田の長期操業継続、勇払既存インフラの有効活用を目指し、北海道内での探鉱・開発ポテンシャルを追求

- 勇払浅層原油開発の可能性を追求 → 来年1月よりあけぼの(T1)A5探掘
- 「明野」等のポテンシャルを早期に評価

3. 天然ガス拡販と安定供給の確保

国内天然ガス事業の供給安定性、競争力の強化を目指す

勇払LNG受入基地およびLNG内航船を活用し、道央南部地域で新規天然ガス需要を開拓

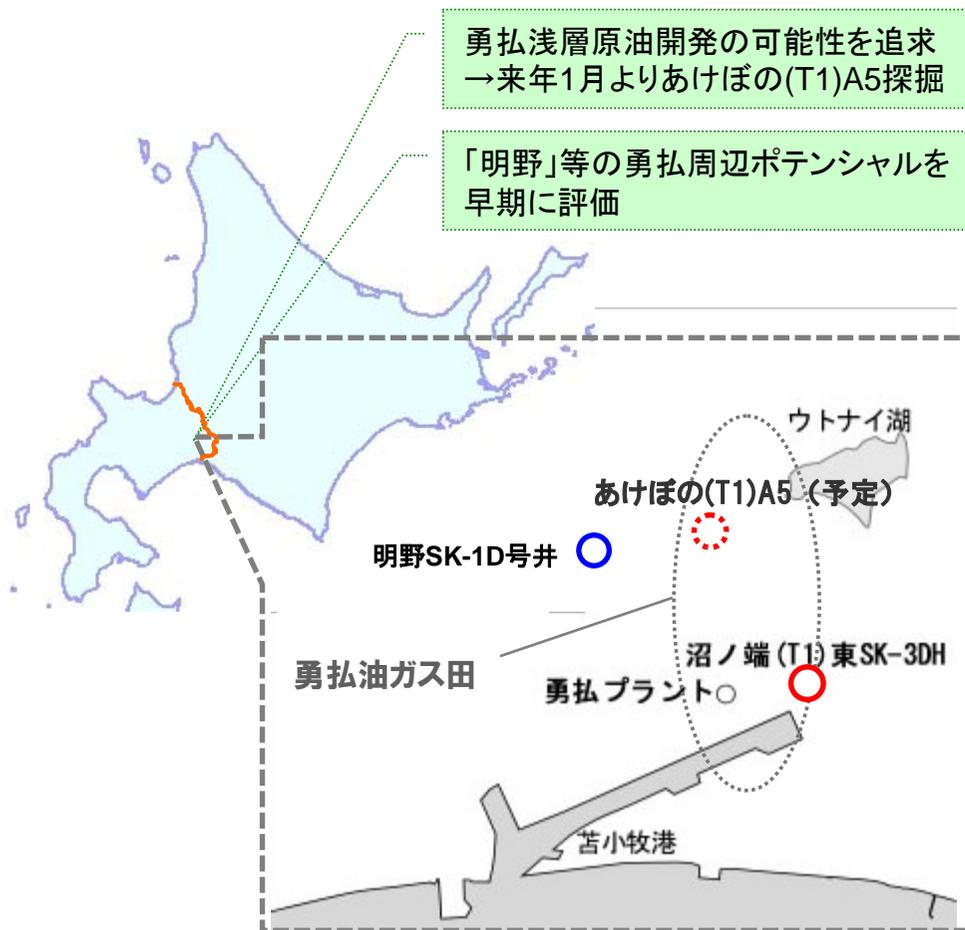
- 太平洋側に新規LNG受入基地建設を計画
- 競争力あるLNGの確保に向け、海外LNG上・中流事業を推進

パイプライン等の既存インフラを活用し、仙台広域圏を中心に新規天然ガス需要を開拓



北海道内での探鉱・開発ポテンシャル追求

勇払浅層原油について開発移行の可能性を追求するとともに、昨年度試掘に成功した「明野」等周辺探鉱開発ポテンシャルを最大限追求します。



基本方針等

- 2012年度には勇払油ガス田の浅層(滝ノ上層)の探鉱を目的として、
 - －沼ノ端(T1)東SK-3DH号井 および
 - －探掘井「あけぼの(T1)A5」の2坑井の掘削を計画
- 沼ノ端(T1)東SK-3DH号井(原油産出試験成功)および来年1月より掘削を予定している「あけぼの(T1)A5」の掘削結果を踏まえ、勇払油ガス田の浅層開発・生産の可能性を追求
- 「明野」等の周辺ポテンシャルを早期に評価し、勇払油ガス田への生産寄与の可能性を追求
 - 2011年8月より試掘井「明野(あけの)SK-1D号井」を掘削
 - 2012年1月より産出テストを実施、原油・ガスの産出に成功

※2012.8.3公表 「北海道での原油産出テスト成功のお知らせ」

http://www.japex.co.jp/newsrelease/pdf/20120803_Hokkaido.pdf

※2012.2.7公表 「北海道の試掘井で天然ガス・原油産出成功のお知らせ」

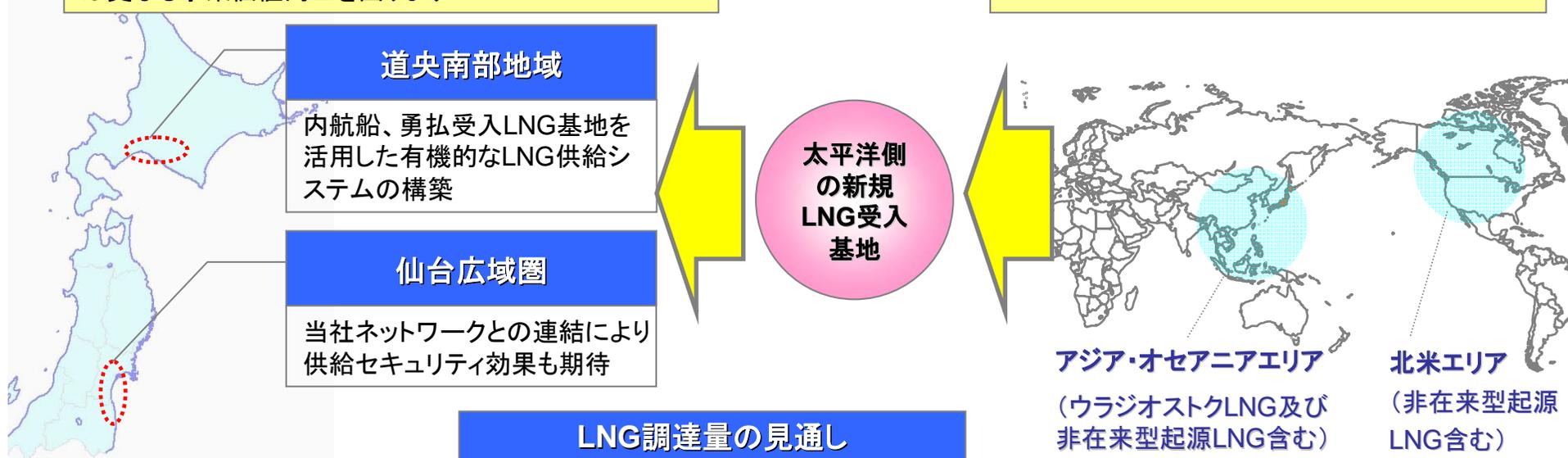
http://www.japex.co.jp/newsrelease/pdf/20120207_Hokkaido.pdf

天然ガス拡販・安定供給の確保

勇払LNG受入基地およびLNG内航船の活用を通じて安定供給の確保を図るとともに、太平洋側に新規LNG受入基地の検討を進め、LNG上・中流事業を通じた競争力ある原料調達・天然ガス拡販に努めます。

太平洋側新規LNG受入基地を通じた天然ガス拡販により、勇払生産量・ガス販売量の減少をカバーし、長期的には更なる事業価値向上を図ります

既存コアエリアを中心として、LNG上中流事業への取組みを強化いたします



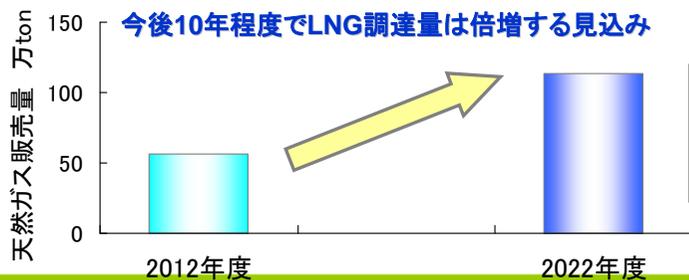
道央南部地域
内航船、勇払受入LNG基地を活用した有機的なLNG供給システムの構築

仙台広域圏
当社ネットワークとの連結により供給セキュリティ効果も期待

アジア・オセアニアエリア
(ウラジオストックLNG及び非在来型起源LNG含む)

北米エリア
(非在来型起源LNG含む)

LNG調達量の見通し



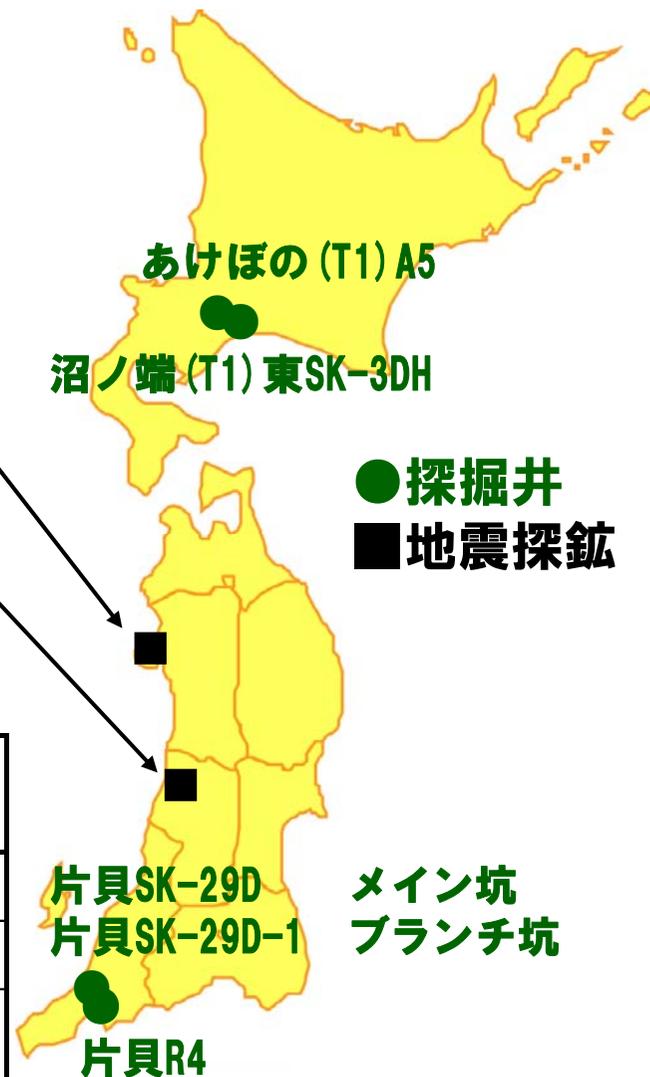
拡販等に伴うLNG調達量増加に対応するため、太平洋側に新規のLNG受入基地建設を計画し、供給セキュリティ向上にも努めます

国内探鉱 上期実績と下期計画

- 探掘: 4坑
- 地震探鉱: 2班

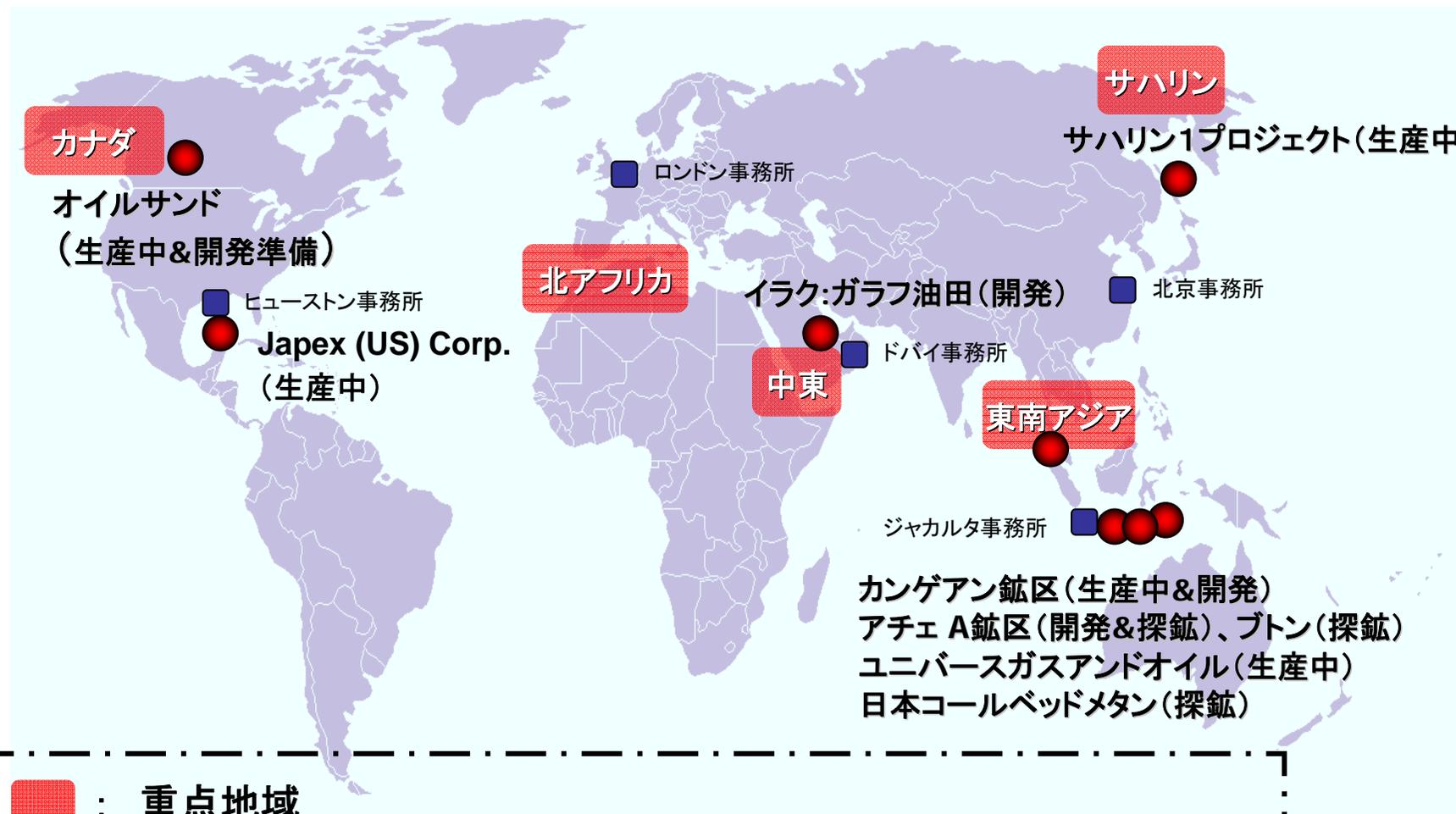
男鹿2D
実績 48km

鳥海山南方2D
計画 21km



	坑井種類	掘削深度	13/3月期												備考				
			1Q				2Q				3Q					4Q			
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3					
沼ノ端(T1)東SK-3DH	探掘	2,275m			■												成功		
あけぼの(T1)A5	探掘	1,700m													■				
片貝SK-29D	探掘	4,900m			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	成功		
片貝SK-29D-1		4,940m			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
片貝R4	探掘	5,395m													■	■	継続		

海外事業【重点地域での取組み】



- : 重点地域
- : 主な連結子会社および持分法関連会社等が権益を保有する鉱区
- : 海外事務所

海外事業現況 ① カナダオイルサンド

プロジェクト会社 カナダオイルサンド(株)
(CANOS:当社86.64% 出資)

オペレーター **Japan Canada Oil Sands Ltd.**
(JACOS:CANOSの100%現地子会社)

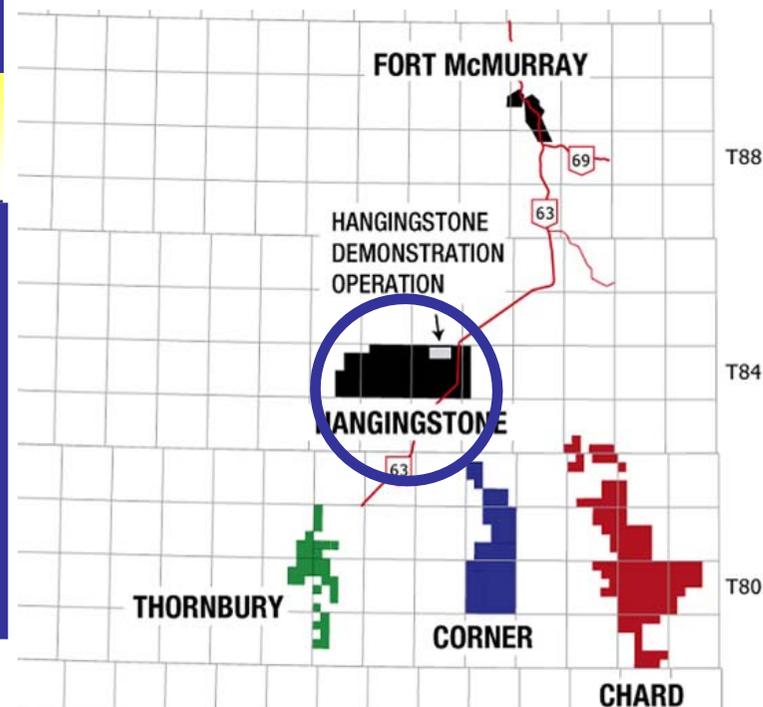
生産中、開発 計画中鉱区	Hangingstone 3.75 セクション 約6,000~7,000 bbl/d (2011年12月末累計生 産量:2,627万bbl) 現在 生産中	Hangingstone 未開発地域 拡張開発計画 最大30,000bbl/d 規模の追加生産
	100%	75%

権益比率

■ 拡張開発計画 スケジュール

- 2010 4月 開発許可申請
基本設計着手
- 2012 開発許可取得後、最終投資意思決定(予定)
2012/2013 冬季 建設工事
着手(予定)
- 2016 2016上期
生産開始(予定)

JACOS オイルサンド権益保有鉱区

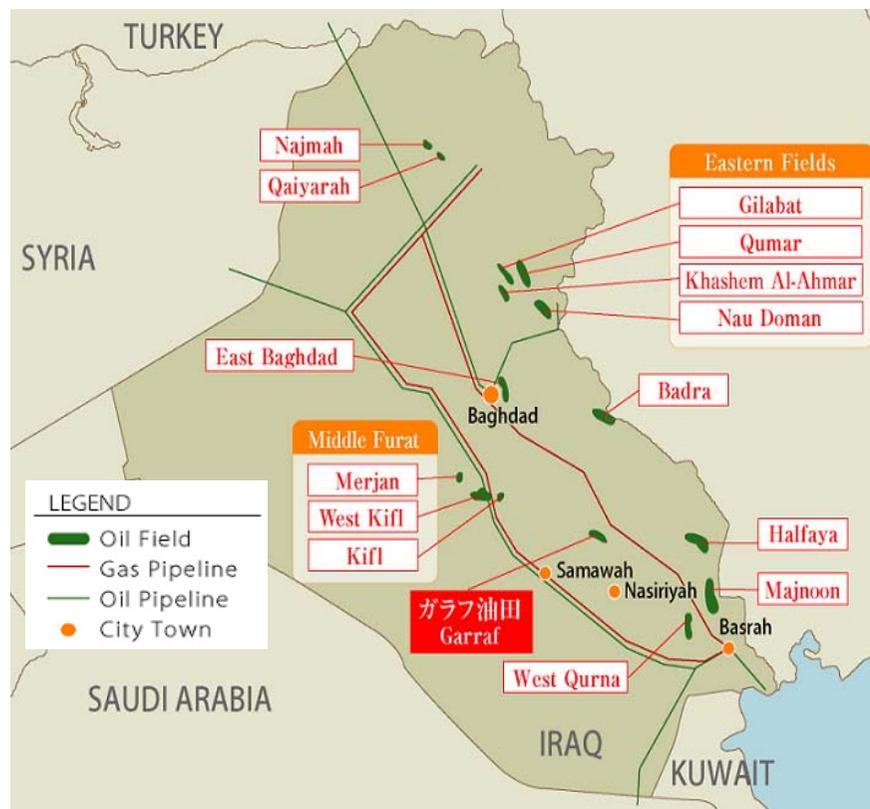


■ JACOS が保有するオイルサンド未開発鉱区
条件付資源量1,717百万bbl (2008年12月末現在)

オイルサンド資源量評価対象鉱区
Hangingstone、Chard、Corner、Thornburyの各鉱区について評価を実施

海外事業現況 ② イラク

ガラフ油田開発プロジェクト		コント ラクター	PETRONAS オペレーター	ジャペックス ガラフ	イラク北部 石油公社
契約種類	開発生産サービス契約				
契約当事者	イラク南部石油公社(SOC)		資金負担 60%	40%	-
契約期間	20年間(最大5年延長可)		収益配分 45%	30%	25%

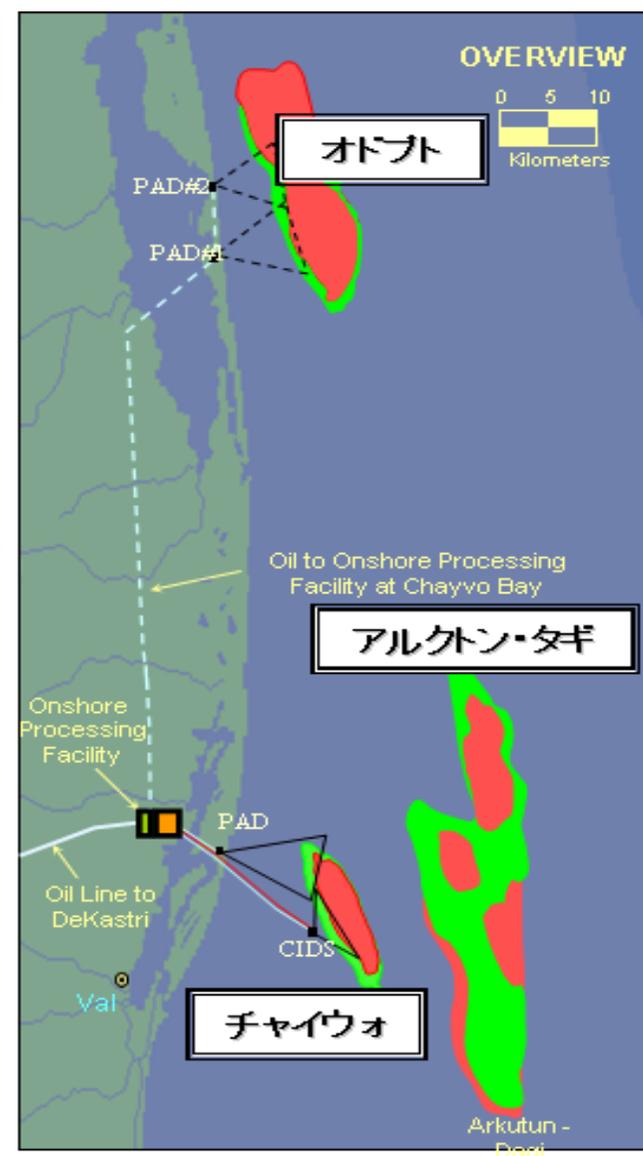


2010	契約発効: 2010年2月10日
2011	2011年6月掘削キャンペーン開始
2013 ~ 2016	商業生産開始後、6万bbl/dへ 引上げ 段階的に生産量の引上げ
2017	23万bbl/d の 目標安定生産量に到達

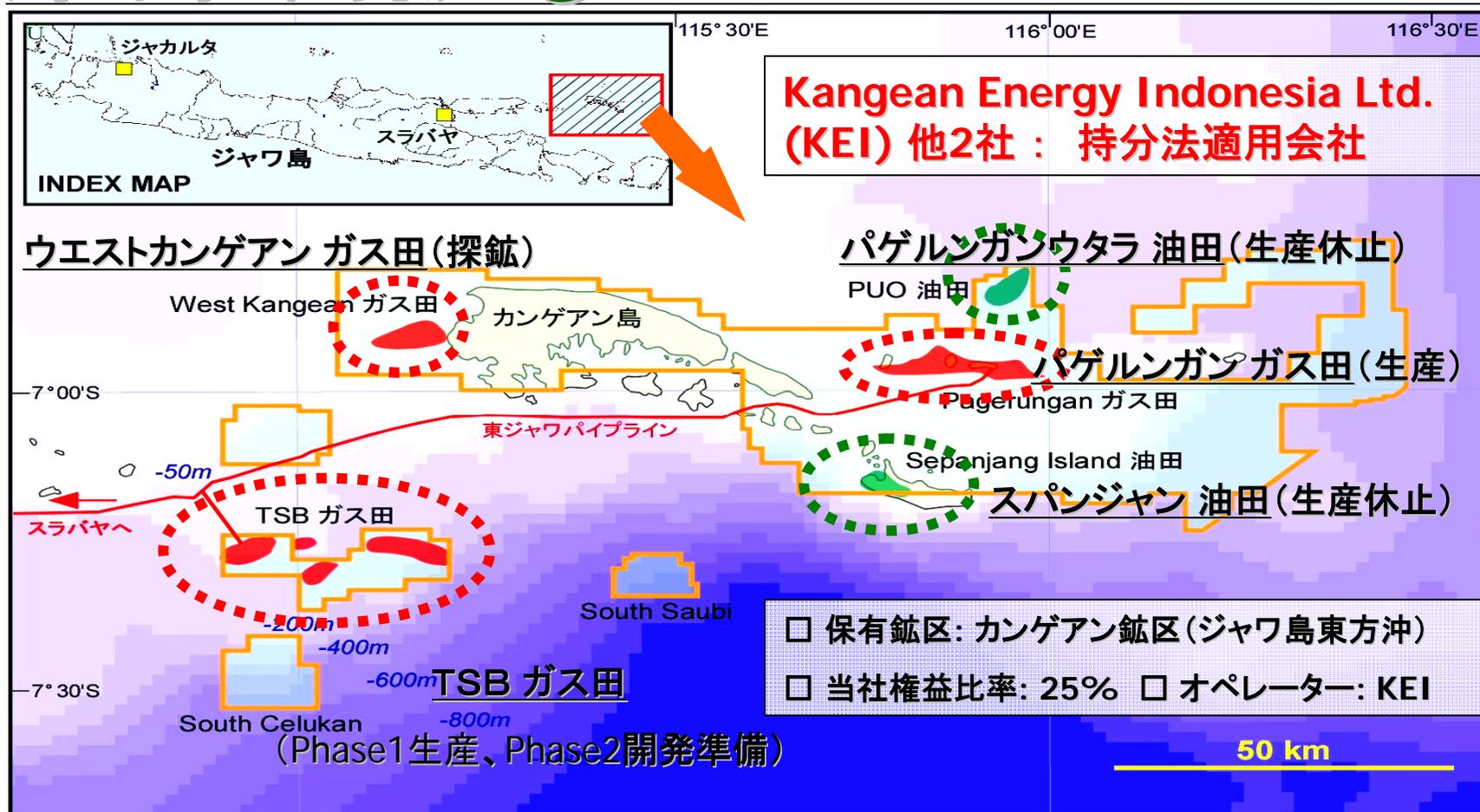
■ 契約期間中 累計生産量
約13億bbl

海外事業現況 ③ サハリン1 プロジェクト

サハリン1 コンソーシアム			権益比率
Exxon Neftegas Ltd.			30%
サハリン石油ガス開発 株式会社 (SODECO)			
[経済産業大臣]	[JAPEX]	[伊藤忠商事]	30%
50.00%	14.46%	14.46%	
[丸紅]	[INPEX]	[伊藤忠石開]	
11.68%	5.74%	3.66%	
ONGC			20%
SMNG-Shelf			11.5%
Rosneft-Astra			8.5%
2005	【チャイウォ 油ガス田】10月原油生産開始		
2006	10月、輸出開始		
2007	2月、目標ピーク生産量 25万bbl/d 到達		
2008	1月、累計生産量1億bbl達成		
2010	9月、【オドプト 油ガス田】原油生産開始		
2014	【アルクトン・ダギ 油ガス田】原油生産開始予定		



海外事業現況 ④ インドネシア カンゲアン鉱区



- 現在の生産規模は、原油換算約5万boe/d
- TSBガス田 (Phase1 テラン構造) : 2012年5月末生産開始
最大生産3億cf/d(原油換算約5万boe/d)
(Phase2 シラスン、バトゥール構造): 開発準備中

海外事業現況 ⑤ インドネシア アチェ A 鉱区

プロジェクト会社 (株) ジャペックス Block A	
権益比率	16.67%
保有鉱区:アチェA鉱区 (スマトラ島北部)	
オペレーター:Medco社 生産規模 最大 約 1億cf/d (原油換算 約 2万boe/d)	



2011	延長PS契約発効(9月)、FEED等作業に着手
2012	試掘井開坑(11月)
2015	アルランボン、アルシワ、ジュールユ の3ガス田から生産開始

2013年3月期 第2四半期 決算の概要
代表取締役副社長 佐藤 弘

勇払油ガス田操業設備の減損損失計上額詳細

減損の兆候

- 油ガス田評価において、生産能力の低下を確認

キャッシュフローの算定と生産量前提

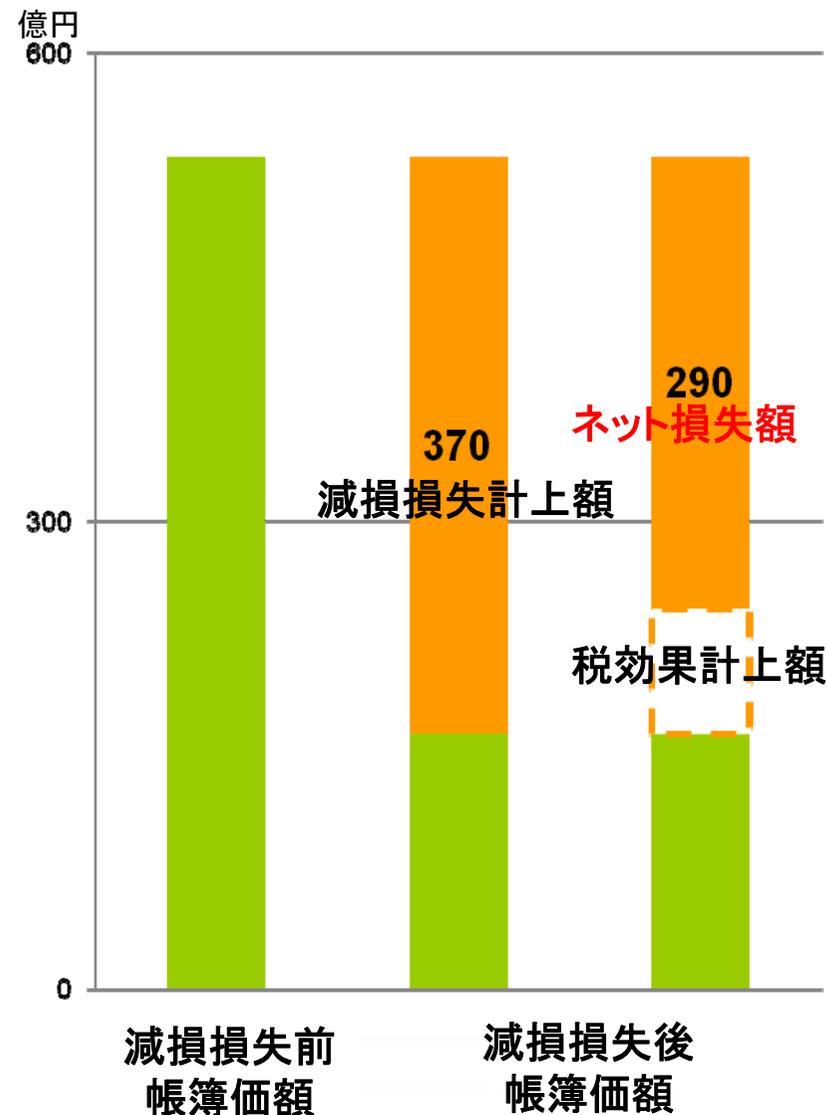
- 2013年度の生産量は、
今年度に比べて相当程度減少し、
その後も漸減していくと想定
(※明野等の開発未決定鉱区は含まず)

キャッシュフローの算定の諸前提

- 油価\$100/bbls 為替¥80/\$
- 現在価値への割引率は10%

キャッシュフローの算定の結果

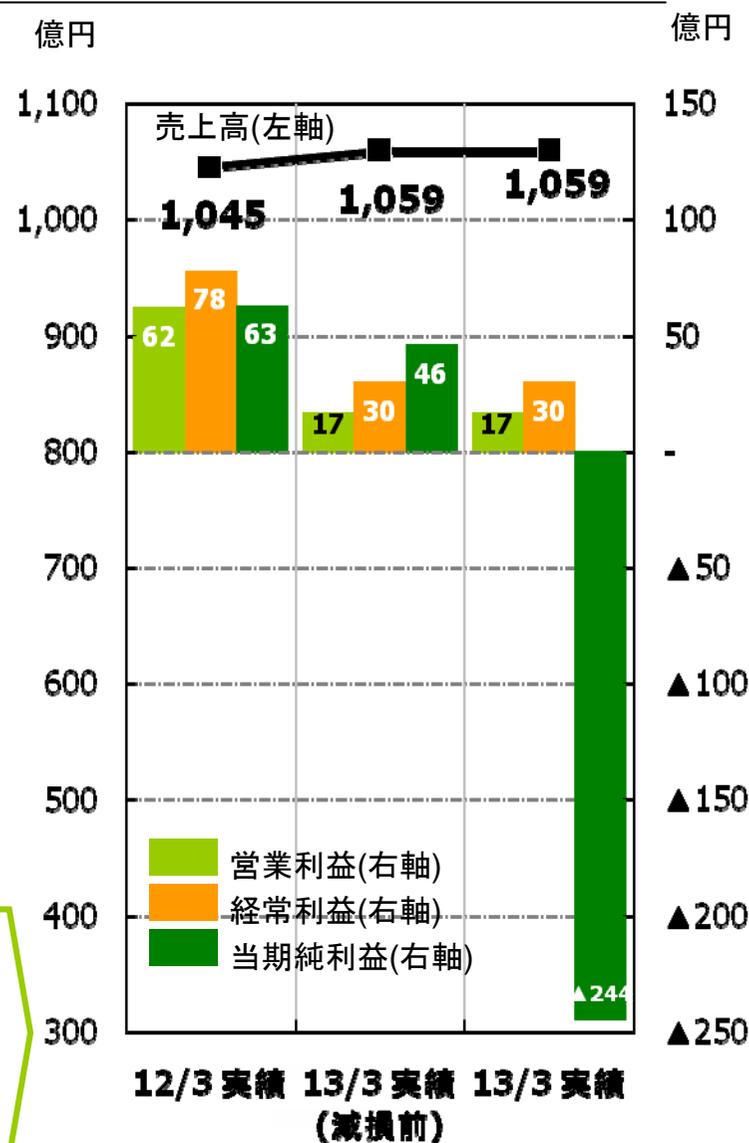
- 勇払油ガス田からのCFはプラスを維持するものの帳簿価額を下回る結果
- 帳簿価額との差額370億円を減損損失として特別損失に計上
- 減損損失額のうち、償却資産に係る損失については税効果を見込む。



13/3月期 第2四半期累計期間 決算サマリー

単位: 億円	12/3月期 1H 実績 (a)	13/3月期 前回予想 1H (e) 8.3公表	13/3月期 1H 実績 (a)
売上高	1,045	1,062	1,059
営業利益	62	49	17
経常利益	78	51	30
四半期純利益	63	61	▲244

前回予想比
▲0%
▲64%
▲40%
—



原油CIF価格と為替 (原油CIF: USD/bbl 為替: 円/USD)

原油CIF	112.38	115.47	116.16
為替/USD	81.07	80.74	80.35

ビチューメン価格と為替 (ビチューメン: CAD/bbl 為替: 円/CAD)

ビチューメン	45.70	52.74	52.02
為替/CAD	83.38	76.77	76.77

前回予想との差異【ポイント】

- 営業利益 ▲30億円
- 営業利益 ▲30億円 ▲33億円(▲12%) 探鉱費 販管費 +2億円
- 経常利益 ▲20億円(▲40%) 持分法投資利益 +11億円
- 四半期純利益 ▲305億円(-) 減損損失▲370億円

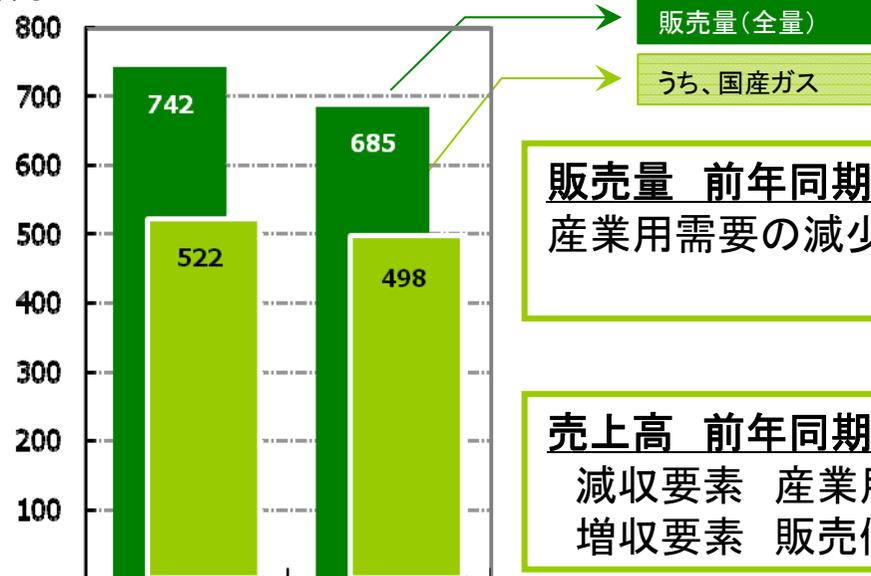
13/3月期 第2四半期累計期間(天然ガス販売状況)

販売量: 百万M3 売上高: 百万円		12/3月期	13/3月期	比較増減 前年同期比
		11/4-9月1H (a)	12/4-9月1H (a)	
天然ガス	販売量	742	685	▲56
	売上高	31,170	30,054	▲1,115
うち、 国産ガス	販売量	522	498	▲24

産業用需要減少
販売価格上昇

本資料における「国産ガス」の販売量は、買入ガスを除く数値を記載しています。

百万M3



販売量 前年同期比 ▲56百万M3 (▲7%) 減少
産業用需要の減少

売上高 前年同期比 ▲11億円 (▲3%) 減少
減収要素 産業用需要の減少
増収要素 販売価格上昇要因による増収

2012.3月期実績 2013.3月期実績

13/3月期 第2四半期累計期間(原油販売状況)

販売量: 千KL 売上高: 百万円		12/3月期	13/3月期	比較増減 前年同期比	
		11/4-9月 1H (a)	12/4-9月 1H (a)		
原油	販売量	896	920	+24	買入原油取引量増加
	売上高	46,649	46,463	▲186	
権益原油の内訳					
国産原油	販売量	239	240	+0	原油価格上昇
	売上高	13,925	14,291	+365	
海外原油	販売量	1	1	▲0	販売数量減少
	売上高	84	61	▲22	
ビチューメン	販売量	175	187	+12	ビチューメン価格上昇
	売上高	4,207	4,708	+501	
原油価格と為替の前提					
原油CIF	USD/bbl	112.38	116.16	+3.78	
為替	円/USD	81.07	80.35	▲0.72	
ビチューメン	CAD/bbl	45.70	52.02	+6.32	
為替	円/CAD	83.38	76.77	▲6.61	

本資料における「国産原油」の販売量及び売上高は、買入原油を除いております。

また、「海外原油」の販売量及び売上高は、海外連結子会社であるJapex (U.S.) Corp.)の数値を記載しています。

13/3月期 第2四半期累計期間 決算概要(前年同期比)

単位:百万円	12/3月期	13/3月期 12/4-9月1H (a)			比較増減
	11/4-9月 1H (a)	減損前	減損処理 影響額	合計	
売上高	104,596	105,958	—	105,958	+1,362
売上総利益	25,338	23,638	—	23,638	▲1,700
探鉱費	4,043	7,316	—	7,316	+3,272
販管費	15,075	14,542	—	14,542	▲532
営業利益	6,219	1,778	—	1,778	▲4,441
営業外損益	1,668	1,241	42	1,284	▲384
経常利益	7,887	3,020	42	3,062	▲4,825
特別損益	▲42	2,258	▲37,031	▲34,773	▲34,730
法人税等	1,277	118	▲7,890	▲7,772	▲9,049
少数株主利益	235	495	—	495	+259
四半期純利益	6,333	4,665	▲29,098	▲24,433	▲30,766

損益変動要因(MEMO)
「増益要因を+」、
「減益要因を▲」で記載

売上総利益
国内原油天然ガス ▲28億円
LNG代替費用 ▲18億円
受託輸送収入 +24億円
海外連結子会社 +7億円

探鉱費
国内探鉱 ▲22億円
海外探鉱 ▲10億円

営業外損益
持分法投資利益 ▲5億円

特別損益
権益譲渡益 +24億円
勇払油ガス田の生産操業
に係る事業用資産の減損
▲370億円

2013年3月期 通期業績予想修正の概要
代表取締役副社長 佐藤 弘

13/3月期 通期業績予想 修正サマリー

単位: 億円	13/3月期 当初予想 通期 (e) 5.11公表	13/3月期 今回予想 通期 (e) 10.26公表	比較増減
売上高	2,147	2,222	+75
営業利益	100	103	+3
経常利益	168	189	+20
当期純利益	165	▲116	▲282

原油CIF価格と為替 (原油CIF: USD/bbl 為替: 円/USD)

原油CIF	100.00	112.08	+12.08
為替/USD	80.00	80.19	+0.19

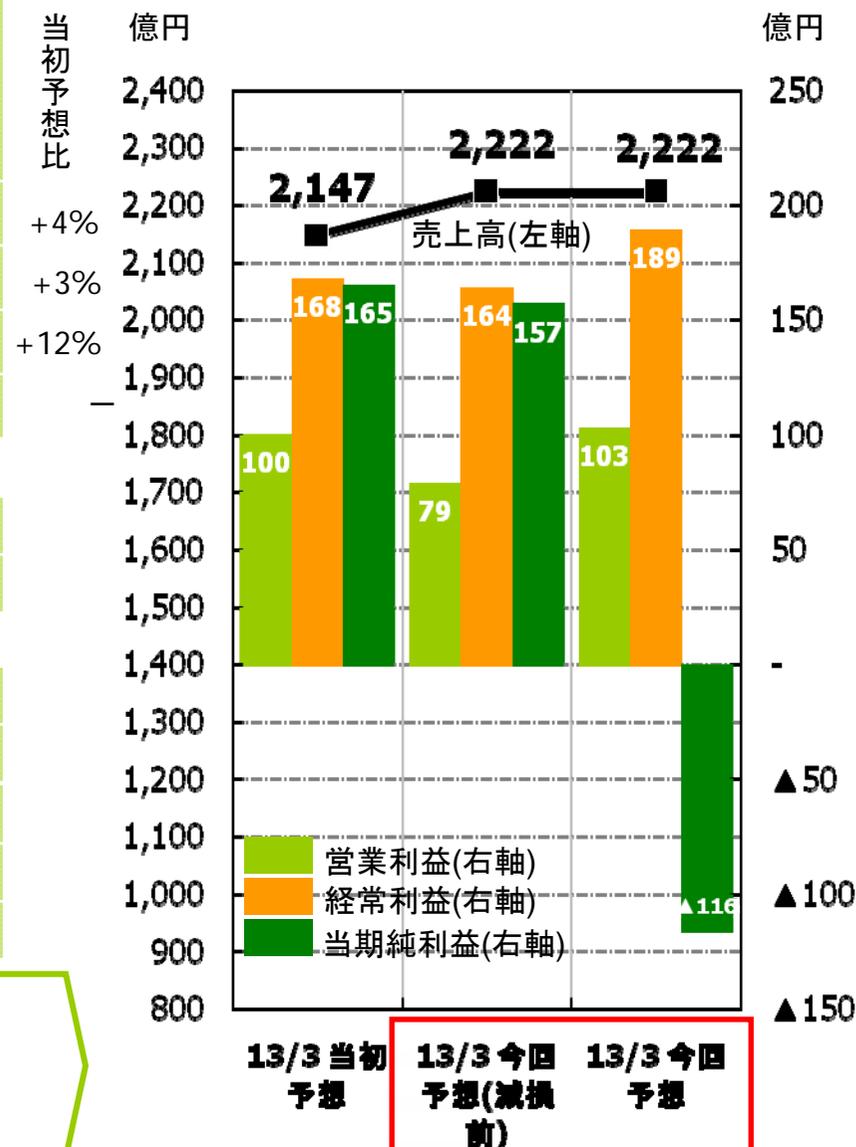
ビチューメン価格と為替 (ビチューメン: CAD/bbl 為替: 円/CAD)

ビチューメン	52.91	48.76	▲4.15
為替/CAD	80.00	80.00	-

今回予想	1Q 実績	2Q 実績	3Q 予想	4Q 予想
原油CIF	124.11	106.79	115.00	100.00
ビチューメン	54.22	49.57	45.29	

【業績予想修正のポイント】

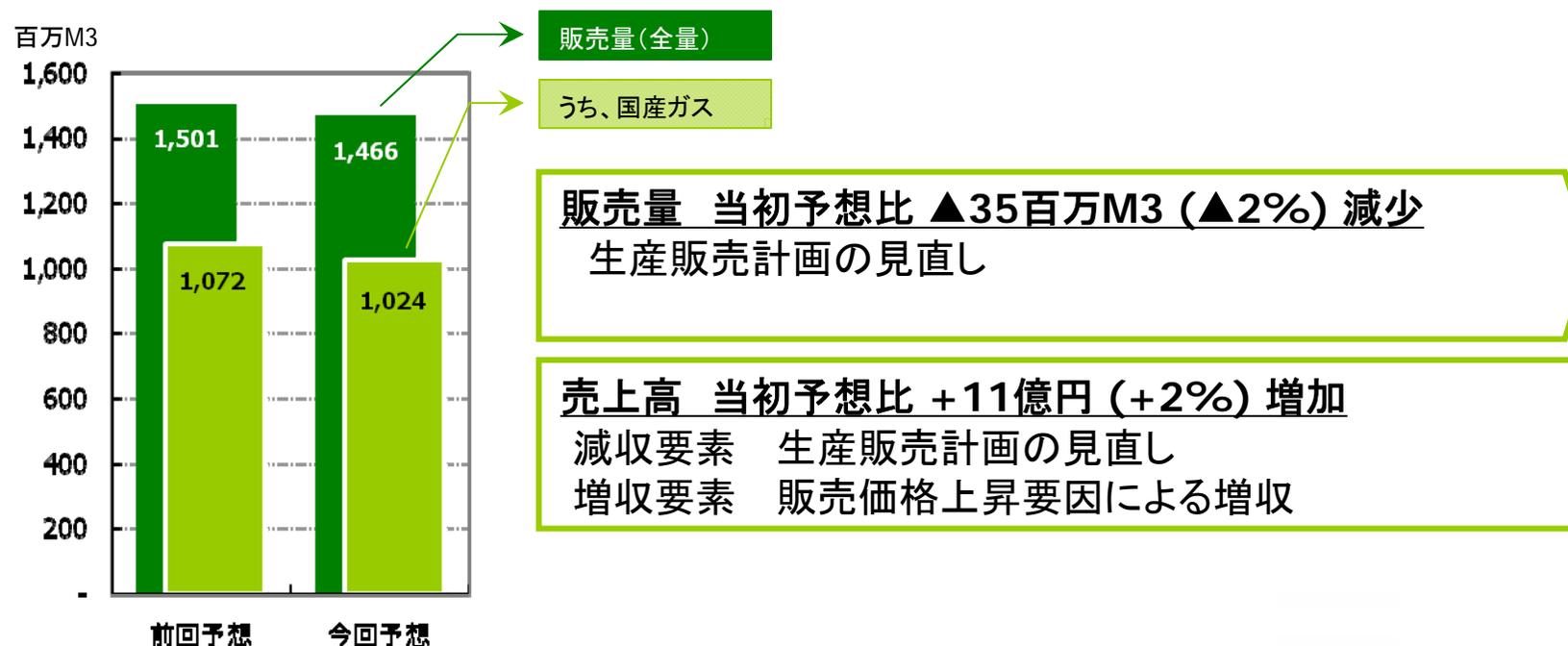
- 増益要因 販売価格上昇 受取配当金の増加
- 減益要因 生産販売計画の見直し
勇払油ガス田に係る事業用資産の減損



13/3月期 通期 天然ガス販売予想 修正(5.11公表比)

販売量: 百万M3 売上高: 百万円		13/3月期 当初予想 5.11公表		13/3月期 今回予想10.26公表		比較増減	
		1Q-2Q (e) #2Q累計	1Q-4Q (e) 通期	1Q-2Q (a) #2Q累計	1Q-4Q (e) 通期	1Q-2Q #2Q累計	1Q-4Q 通期
天然ガス	販売量	698	1,501	685	1,466	▲12	▲35
	売上高	31,385	67,225	30,054	68,406	▲1,330	+1,181
うち、 国産ガス	販売量	519	1,072	498	1,024	▲21	▲48

本資料における「国産ガス」の販売量は、買入ガスを除く数値を記載しています。



13/3月期 通期 原油販売予想 修正(5.11公表比)

販売量: 千KL 売上高: 百万円		13/3月期 当初予想 5.11公表		13/3月期 今回予想10.26公表		比較増減	
		1Q-2Q (e) #2Q累計	1Q-4Q (e) 通期	1Q-2Q (a) #2Q累計	1Q-4Q (e) 通期	1Q-2Q #2Q累計	1Q-4Q 通期
原油	販売量	804	1,764	920	1,689	+116	▲75
	売上高	37,577	81,604	46,463	83,473	+8,886	+1,869
権益原油の内訳							
国産原油	販売量	251	489	240	452	▲10	▲37
	売上高	12,920	25,146	14,291	25,902	+1,371	+756
海外原油	販売量	1	2	1	5	+1	+3
	売上高	48	91	61	271	+14	+180
ビチューメン	販売量	173	380	187	362	+14	▲18
	売上高	4,705	10,103	4,708	8,917	+3	▲1,187
原油価格と為替の前提							
原油CIF	USD/bbl	100.00	100.00	116.16	112.08	+16.16	+12.08
為替	円/USD	80.00	80.00	80.35	80.19	+0.35	+0.19
ビチューメン	CAD/bbl	54.12	52.91	52.02	48.76	▲2.10	▲4.15
為替	円/CAD	80.00	80.00	76.77	80.00	▲3.23	-

本資料における「国産原油」の販売量及び売上高は、買入原油を除いております。

また、「海外原油」の販売量及び売上高は、海外連結子会社であるJapex (U.S.) Corp.)の数値を記載しています。

13/3月期 通期 業績予想 修正(5.11公表比)

単位:百万円	13/3月期 当初予想 通期(e) 5.11公表	13/3月期 今回予想 通期(e) 10.26公表			比較増減
		減損前	減損処理 影響額	合計	
売上高	214,653	222,228	—	222,228	+7,575
売上総利益	54,865	53,160	2,235	55,395	+530
探鉱費	13,896	13,469	—	13,469	▲427
販管費	30,966	31,460	162	31,622	+656
営業利益	10,003	7,907	2,397	10,304	+301
営業外損益	6,816	8,512	39	8,551	+1,735
経常利益	16,819	16,419	2,436	18,855	+2,036
特別損益	2,378	2,281	▲37,031	▲34,750	▲37,128
法人税等	1,969	2,224	▲7,216	▲4,992	▲6,961
少数株主利益	702	727	—	727	+25
当期純利益	16,526	15,749	▲27,380	▲11,630	▲28,156

損益変動要因(MEMO)
「増益要因を+」、
「減益要因を▲」で記載

売上総利益
国内原油天然ガス +4億円
LNG代替費用 ▲5億円
受託輸送収入 +8億円
海外連結子会社 ▲4億円

探鉱費
国内探鉱 +9億円
海外探鉱 ▲5億円

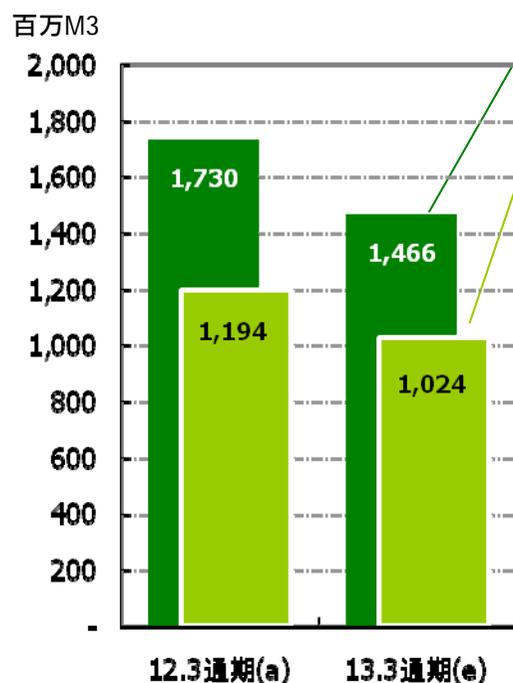
営業外損益
受取配当金 +18億円

特別損益
勇払油ガス田の生産操業
に係る事業用資産の減損
▲370億円

13/3月期 通期 天然ガス販売予想 修正(前期比)

販売量: 百万M3 売上高: 百万円		12/3月期	13/3月期 通期 今回予想		10.26公表	比較増減
		通期 実績 (a)	4-9月 実績 1H (a)	10-3月 予想 2H (e)	通期 (e)	前期比
天然ガス	販売量	1,730	685	781	1,466	▲264
	売上高	74,957	30,054	38,352	68,406	▲6,552
うち、 国産ガス	販売量	1,194	498	526	1,024	▲171

本資料における「国産ガス」の販売量は、買入ガスを除く数値を記載しています。



販売量 前期比 ▲264百万M3 (▲15%)減少
生産販売計画の見直し、産業用需要減少

売上高 前期比 ▲65億円 (▲9%)減少
減収要素 生産販売計画の見直し
増収要素 販売価格上昇要因による増収

13/3月期 通期 原油販売予想 修正(前期比)

販売量: 千KL 売上高: 百万円		12/3月期	13/3月期 通期 今回予想 10.26公表			比較増減
		通期 実績 (a)	4-9月 実績 1H (a)	10-3月 予想 2H (e)	通期 (e)	前期比
原油	販売量	1,778	920	769	1,689	▲90
	売上高	89,891	46,463	37,010	83,473	▲6,419

権益原油の内訳

国産原油	販売量	529	240	211	452	▲77
	売上高	30,351	14,291	11,611	25,902	▲4,449
海外原油	販売量	2	1	4	5	+3
	売上高	128	61	210	271	+143
ビチューメン	販売量	382	187	174	362	▲21
	売上高	9,137	4,708	4,208	8,917	▲221

原油価格と為替の前提

原油CIF	USD/bbl	112.43	116.16	107.48	112.08	▲0.35
為替	円/USD	78.93	80.35	80.00	80.19	+1.26
ビチューメン	CAD/bbl	49.81	52.02	45.29	48.76	▲1.05
為替	円/CAD	76.22	76.77	80.00	80.00	+3.78

本資料における「国産原油」の販売量及び売上高は、買入原油を除いております。

また、「海外原油」の販売量及び売上高は、海外連結子会社であるJapex (U.S.) Corp.の数値を記載しています。

13/3月期 通期 業績予想 修正(前期比)

単位:百万円	12/3月期	13/3月期 今回予想 通期(e)			比較増減
	通期 実績 (a)	減損前	減損処理 影響額	合計	
売上高	230,638	222,228	—	222,228	▲8,410
売上総利益	56,278	53,160	2,235	55,395	▲883
探鉱費	7,805	13,469	—	13,469	+5,663
販管費	33,426	31,460	162	31,622	▲1,805
営業利益	15,045	7,907	2,397	10,304	▲4,742
営業外損益	7,114	8,512	39	8,551	+1,437
経常利益	22,159	16,419	2,436	18,855	▲3,305
特別損益	311	2,281	▲37,031	▲34,750	▲35,061
法人税等	4,746	2,224	▲7,216	▲4,992	▲9,739
少数株主利益	696	727	—	727	+30
当期純利益	17,027	15,749	▲27,380	▲11,630	▲28,657

損益変動要因 (MEMO)
「増益要因を +」、
「減益要因を ▲」で記載

売上総利益
国内原油天然ガス ▲35億円
LNG代替費用 ▲3億円
受託輸送収入 +30億円
海外連結子会社 ▲1億円

探鉱費
国内探鉱 ▲33億円
海外探鉱 ▲23億円

営業外損益
受取配当金 +13億円

特別損益
権益譲渡益 +26億円
勇払油ガス田の生産操業
に係る事業用資産の減損
▲370億円

油価・為替の前提及び収益への影響：対象期間 3Q-4Q

		2012年3月期			2013年3月期				
		1H (a)	2H (a)	1Q-4Q(a)	1stQ(a)	2ndQ(a)	3rdQ(e)	4thQ(e)	1Q-4Q(e)
原油CIF	USD/bbl	112.38	112.48	112.43	124.11	106.79	115.00	100.00	112.08
為替	円/USD	81.07	77.17	78.93	81.26	79.11	80.00		80.19
ビチューメン	CAD/bbl	45.70	53.30	49.81	54.22	49.57	46.22	44.64	48.76
為替	円/CAD	83.38	76.22	76.22	82.52	76.77	79.14	80.00	80.00

油価と為替
の前提
対象[3Q-4Q]

原油CIF価格
USD 107.48 /bbl

為替
80 円/USD

ビチューメン (4thQ)
CAD 44.64 /bbl
(80 円/CAD)

収益 影響額
対象[3Q-4Q]

USD 1 /bbl の
油価上昇による
利益増加額は…

5 円/USD の
円安による
利益増加額は…

CAD 1 /bbl の
ビチューメン価格上昇
による利益増加額は…

営業利益	130 百万円	270 百万円	(92 万CAD) 70 百万円
当期純利益	90 百万円	260 百万円	(81 万CAD) 60 百万円

注：為替変動の影響に関して、上記に示したものの以外に、外貨建金銭債権債務の為替レート換算差額が発生します。
また、実際の利益は原油価格や為替以外の様々な要因によっても影響されます。